



行政と市民の関係を創造する  
**NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会**

会報  
96 号  
2017/10/6

発行人 梶 宏 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809  
TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp

11月26日(日) シンポジウム開催決定！

**だまったらあかん！～現場からの声～  
一見えてきた“総合事業”の問題点一**



総合事業がスタートして7カ月が経ちましたが、「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」では、この総合事業の現状と現場の声を聞くことを目的に、第2回目のシンポジウムを昨年度に続いて開催することになりました。浜岡政好氏（仏教大名誉教授）が講演され、4名のパネリストがそれぞれ、アンケート調査による要支援1・2の利用者の声、地域包括支援センター、訪問介護事業所や現場のヘルパーの実態と問題点などを報告し、当日の成果を提言としてまとめ、行政に提出する予定となっています。

介護保険法の改正の結果、この4月からは介護保険制度の土台を覆すような制度になりました。要支援1・2の軽度要介護者が、受けていた介護予防サービス（訪問介護、通所介護）が保険給付から外れ、各市町村が担う総合事業へと移行しました。改正以前は、身体介護と生活援助の区別なく専門職のヘルパーが支援していたのを、京都市では厚労省のガイドラインに沿って、京都市独自の基準を設定し、介護型ヘルパーのほかに新たに生活援助型ヘルパーや無資格者による支え合い型ヘルパーを創設し、ヘルパー報酬にも大きな差が生まれました。また、要介護認定の手続きは、従来方式とは別に、即日結果がわかるという簡便な「基準チェックリストによる判定」方法が取り入れられています。

介護の専門職でない地域住民に簡単な講習を行い、支え合いという熱意に期待した「支えあい型ヘルパー」の現状は、登録者も

いまだ少なくその利用者はあまりいないとも聞きます。身体介護を伴わない家事援助に対する報酬は低く抑えられ、特に小規模事業所では経営難のためこのサービスを辞退するところも多く、また前から続くヘルパー不足はさらに深刻化し事業所の運営に苦勞している話も聞きます。財政抑制のためとはいえあちこちに無理が出ているように思います。

8月19日の京都新聞に、市区町村事業に移行した今回の総合事業に関する調査結果が掲載されていました。全国の自治体の45%が「事業の運営に苦慮している」ということですが、京都市は「順調」と回答しています。現場の実情を知っておられるのでしょうか。

厚労省の発表では、2016年度の介護・要支援サービスの利用者は約613万人で、介護予防の利用者が約6万人減の約150万人に転じました。これは、段階的に介護保険から市町村事業に移行した結果であり弱者排除が見えてきます。政府は介護保険改革をさらに進め、要支援1・2向けサービスの移行も検討課題に挙げています。

当会の創設時からのモットー「①安心できる介護 ②納得できる介護保険 ③信頼できる制度を」を強く掲げて、介護市民ネットワークを通してみなさんと協働で取り組んでいきたいと思っています。

（中川 慶子 記）

（同封のチラシをご覧ください。）

第83回  
研修会  
報告

「ともいきのまちづくり」

「ふだんのくらしのしあわせを支える仕組みづくり」

日 時：9月20日（水）13：30～16：30  
会 場：ひと・まち交流館京都 2階第1・2会議室  
講 師：橋本武也氏 社会福祉法人同和園 常務理事・園長  
参加者：38名



＝要旨＝ 「地域包括ケア」を取り巻く状況と、同和園が目指していること。

同和園は、1921年に「京都養老院」として開設された京都府下一古い老人ホームであるが、現在は一番新しいことに取り組み、地域の要望に応えたサービスや多方面にわたる挑戦を行っていることは新聞でも報道されている。

講師である橋本氏は、「制度を待つのではなく能動的に働きかける姿勢」を大事している。また、近年「福祉」の文字には人気がなくなってきているが、「その心が変わらなければ、言い方は変わってもよい」と考えている。京都老人施設協議会の副会長の他、京都市や府の委員会・審議会の委員も務めている。

研修会では、経済産業省が発表した報告書の内容についての解説と、同和園が目指している「同和園安心ケアサポートシステム」の取組み内容についてお話を伺った。さらにご講演後には、グループ討議へのコメントもいただいた。

○『将来の介護需要に即した介護サービスの提供に関する研究会』報告書

2016年3月に、経済産業省 経済産業政策局 産業構造課によってまとめられた報告書。この報告書に注目する必要は、厚労省ではなく経産省の官僚やその周囲の学者によってつくられた（と聞いている）点。しかし、現状と将来の課題を数字で分析していて、非常にレベルの高い報告書である。

社会の構造的な課題は、「人口減少社会」を迎えること。まず、生産にたずさわる人口が減少する中で、誰が私たちの生活を支えていくのか。さらに若者を取り込み、しかし合計特殊出生率が国内で最低の東京に、人口だけではなく産業も一極集中していること。つまり、東京とその他の地域の課題には差がある。

とはいえ、「将来の高齢者を取り巻く環境」を考えると、「経済的環境」については、「年金に頼らず70歳まで働き続ける」とこと「医療と介護に係るコスト」をいかに抑えるかがポイント。労働人口が減るので、働き続けてもらう社会的な必要もある。「社会的環境」としては、「参加」(join)にとどまらず「地域の中で役割を担う」(take part)ことがポイント。学んだこと、気づいたことを、自らの地元で行動に移すことが求められる。

そのためにも「健康寿命」を延ばし、要介護期間を短縮することを経産省は考えている。しかし、これが独り歩きすると、障害者等の社会的弱者は、「重荷になる」ととらえられることもありえる。そのような、社会的に排除するということが起こらないためにも、厚労省にはがんばって欲しい。

○「ふだんのくらしのしあわせを支える仕組み」  
～同和園安心ケアサポートシステム～では、どのようなことに取り組んでいるのか。

まず、地域の中に施設もあり、施設の中で暮らす利用者さんも地域住民であるという視点に立っている。ひとりひとりの価値観で、しかしその地域で一緒に生活している人々を支える仕組みが、「地域包括ケア」であると認識している。

また、地域で暮らす高齢者の方がお元気な時から、要介護状態になり、人生の最終ステージにゆく。その人生のそれぞれのステージ（横軸）において、どのようなサービスを提供できるのか（縦軸）のマトリクスの中でとらえている。

特に大切にしているのは「支援の入口」。現在の介護保険制度では、にっちもさっちもいなくなって初めてサービスがはじまる。これでは、特に認知症ケアでは遅い。比較のお元気なステージで出会う場所を作ろうというのが、地域包括ケアの一つの目玉。地域に住んでいる方々によるインフォーマル・サービスや関係団体と手をつないで

ネットワークを作り、間口を広げた。これが「地域包括ケアネットワーク」。「地域包括ケアシステム」も元々の理念は、新しいものをつくるのではなく、今まであるものとあるものを新しい視点で結び付けての「ネットワーク化」、つまり「イノベーション」。さらに、これまで積み重ねてきた実践知を活かした地域貢献を進めている。その

事例が、「定期巡回・随時対応型訪問介護・看護サービス」等。法人内に既にある力を地域の人々の活動や関係機関とのネットワークを構築することにより、アウトリーチ可能な力に変換し、地域で活かせる力として活動している。

(萩原 三義 記)



## グループ討議

テーマ ・ えっ！70歳まで働くの？  
・ take part（地域の中で役割を担う）

① 高齢者は何歳から、今は70歳でも元気。昔より元気なので70歳まで働けと言われているのか、国の経済的な面から労働者として働けと言われているのか。役割を求められているから働くのか。チャンスがあるなら手伝うが、働けと言われて働くのは嫌。地域で役に立つならがんばりたい。

② なんのために働くのか、お金が欲しいからか。年相当の働き方があるのではないか。社会の役に立つことも働くことなのではないか。生活の仕方というのは皆それぞれ、そこに働く意義を見つけているのではないか。働きたくても働けない人のことも考えないといけない。働くことは、達成感、生活の価値観、人生を豊かにしてくれる。

③ 元気であれば働きたい。働くことによって社会参加、社会貢献をし、健康につながっていく。認知症予防など働くことの効用の話がでた。

take part とのことだが、地域の中での役割の分担がわからない、見つからない。町内会はあるけど、顔も知らない中でどうやって、機会を作っていくのか。声掛けの出来る人が必要ではないか。システム作りがこれからの課題ではないか。その役割を担うのは社協ではなかろうか。

④ 70歳まで働いたら老後の楽しみを経験できず死んでしまうのではないか。働くことは社会参加だが生活のためでもある。やりがいを与えているからお金が少なくても良いと言うことになっていないか。年金と蓄えで生活しているが、年金が減らされている。やりがいがあるとお金が貰えるのが良いのではないか。そのことがあって暮らし続けていける地域が成り立つ take part、高齢者どうしの共助を作っていく。多文化、他世代共生も必要だろう。これらの仕掛けは簡単、飲み食いだ。

⑤ take part 地域の集まりに参加していない人は、支援から漏れていないか、そういう方の手伝いをしたい。子ども食堂やってみたい。社協もっと情報を発信して欲しい。働いている世代は地域の活動を積極的にできず、地域の輪に入りにくい、こちらから近づいていこうかなと思っている。

生涯現役で働こうと現在思っている。働きたくないと言う人もいて、70歳になった時どうなるのかわからなくなった。

◎ 前号の会報でお知らせできなかった第82、83回研修会の講演後のグループ討議の内容をお知らせします。

## 第82回研修会 地域にどう向き合う！—これからの地域社会を考える—

講演終了後、感想を含め、地域について  グループ討議を3グループに分かれて行う。

- ・公民館を造ろう。
- ・すこやか学級は圧倒的に女性が多く、男性は1割。
- ・地域のボスが発生しないか、ボス化が心配。
- ・地域を支えるのが大変、担い手がない。
- ・飲み会とか、溝掃除とか作業をつくると男性は参加する。
- ・料理教室とかをして、高齢者に対しても専門的な人がいればよい。
- ・地域の役員は輪番制、なり手がない。
- ・地域活動はやらされている感が強い、自発的なところが薄い。
- ・女性会が配食サービスをしている。
- ・介護に関して、地域にプロ（専門家）が入ることによって、住民とのかかわりが薄くなった。



## 第83回研修会 これからの介護保険制度改正の方向と介護人材について



グループ討議

～介護事業を行っている立場から～

- ・ケアの専門性について、日常の世話なら誰でも出来るというところから、出発しているのがいけないのではないか。キュアなら治ると言うように専門性は見えるが、ケアは日常のことなので見えにくい。
- ・親世代は施設がなくて、病院に何年もいられたが、介護保険が出来てからたらい回しにされているような気がする。
- ・小学校単位で小規模多機能の実施をすすめて欲しい。
- ・民生・児童委員、誰が担当かわからない地域もあり、このような状態での地域包括ケアが心配である。
- ・ヘルパーという名前があかんのとちゃうか。
- ・10年近く運動してきたが、悪化の一途。なんとかせなあかん。
- ・介護の専門性とはなんだろう。概念をきっちり作る必要がある。
- ・介護を魅力ある職種にしていけないと、人材確保は出来ない。
- ・看護団体のように、介護の専門性に於いては、労働組合を活発にして勝ち取っていく必要がある。
- ・家族で見ると言うよりは、施設でと言う考えが一般常識になっている時代に、本当に互助や共助が出来るのか、地域包括ケアでできるのか。梯子を外してしまっていて、もう一回どうしていくのか。
- ・どんな人材に介護してもらいたいのか、真剣に考える必要があるのではないか。
- ・講演の内容が盛りだくさん、ひとつひとつ大事なことなので、具体的に詳しい話が聞きたかった。
- ・施設にバラツキがあるのにどうやってグループ化するのか。人材のバラツキをどうするのか、いろいろと問題があるのではないか。



## 第三者評価調査者フォローアップ研修会報告

去る8月31日（木）ひと・まち交流館京都において、研修会を開催しました。第三者評価にあたっての心得から始まり、39項目のチェックポイント、見学時のポイント、ヒアリングシートについてなどの確認と討議をしました。利用者の目線に立った調査を通して、事業所の伴走者たる当会の姿勢を再度確認し、学びを深めました。

## 「我が事、丸ごと」はホントに地域福祉をつくれるのか！

### 第 85 回 特別研修会 案 内

日 時：10月14日（土）13:30～16:30  
会 場：ひと・まち交流館京都 3階第5会議室  
講 師：竹下 義樹 弁護士  
参加費：会員 300 円 会員外 500 円  
内 容 同封のチラシをご覧ください。



### 第 2 回 シンポジウム

## だまっていたらあかん！～現場からの声～ ー見えてきた“総合事業”の問題点ー

日 時：11月26日（日）13:30～16:40  
会 場：ひと・まち交流館京都 3階第4・5会議室  
主 催：よりよい介護をつくる市民ネットワーク 第2回 シンポジウム  
（きょうと介護保険にかかわる会、京都ヘルパー連絡会、マイケアプラン研究会、  
高齢社会をよくする女性の会・京都、助けあいグループりぼん）  
参加費：300 円  
内 容 同封のチラシをご覧ください。

## 会員のひろば

### 畑 系り子さん 「ひとり絵展」ーあたたかき時の流れー

10月18日（水）～23日（月）10:00～17:00 最終日は16:00 法然院南書院 （左京区  
鹿ヶ谷御所ノ段町）山門は16:00に閉りますが横の道から入れます。

♥ ひたすら描く暮らしを続けて25年が経ちました。出会ったすべての方に感謝です。

### 本の紹介 『これ1冊でわかる特別養護老人ホーム』

介護保険市民オンブズマン機構大阪 編著 2016年発行

♥ 市民オンブズマンが15年の活動の中でまとめた、特養利用のガイドブック。  
特養という言葉は多くの方が知っていますが、内容を知る人は少ないでしょう。  
特養の全体像がわかります。

### ～上古 久栄さんを偲んで～

かかわる会設立のとき中心的な役割をはたしてくださった上古久栄さんが8月14日に亡くなられたと先般、お連れ合いからご通知があった（享年84歳）。彼女との出会いは20年前、さわやか福祉財団の全国交流集会の席上だった。同志社大学の診療所勤務を定年で終え、何かやりたいという願いから同財団に電話をされ、それではと勧められたのがきっかけで私と東京で顔を合わせ、そこからトントン拍子にかかわる会ができあがった。晩年はリュウマチで苦しめられたが電話の声は若々しく前向きだった。あの笑顔が写真でしか見られなくなったことは淋しいが、神経痛に悩まされつつも一歩歩ける私は「頑張ります」と彼女の遺影に語りかけたい。（梶 宏）



4年前の定年退職を期に、娘が「後はおまけの人生だから自分のしたいように生きたら」と言ってくれました。孫育ても一番下が7歳になり手が掛からなくなったので学区のすこやか会(老人会)に入会。入会してすぐに若手委員に選ばれ、歩こう会に参加。毎月1回2万歩、週2回1万歩、8月には1泊2日でトレッキングが有ります。今年は、美ヶ原高原に行きます。

御蔭さまで足腰は丈夫で、日本一周一人旅を始め、国内、国外にと旅行に明け暮れていました。特に印象に残っているのは東北震災の跡地を訪ねた時、三陸鉄道で一緒になった高校生が震災で両親を亡くしたにも関わらず、同じ境遇の子供たちのために自分が出来る事を手伝っていると話してくれました。明るい笑顔に頭が下がりました。

各地で沢山の方と御縁を頂き、元気で自分の事ができ微力ながら何か役に立てる事が有るのは有り難い事です。

体だけではなく、頭も使わないと老化に拍車をかけます。クイズ、パズル、間違い探し、頭の体操等色々試してきました。どうしても解らないときは辞書、パソコンなどで調べられますが、ナンプレは、自分で解くしかないのです。

ナンプレをご存知ない方に解き方を紹介します。

9×9のマスを1から9の数で埋める。

ルール1・どの縦1列にも1～9の数字が1個ずつ入る

ルール2・どの横1列にも1～9の数字が1個ずつ入る

ルール3・区切られた3×3のどのブロックにも1～9の数字が1個ずつ入る

ルールを覚えてやれば解けます。

初級編から始まって中級編、上級編、名人編、霸王編、仙人編等あります。初級編は10級から1級、中級編は初段から10段と段階があります。1000 問位クリアすれば霸王編にたどり着けます。

上級編位から、自分流のやり方が見つかり考え方が変わってきます。ルールの見直しです。

ルール①どの縦1列にも同じ数字は入らない

ルール②どの横1列にも同じ数字は入らない

ルール③区切られた3×3のどのブロックにも同じ数字は入らない

マスに入らない数字は何かを考えると直ぐに解けます。一度挑戦してみてください。

最初は時間がかかりますが、意外と簡単に解けます。

来年は私も古希を迎えます。

おまけの人生。毎日、ポジティブに楽しい人生を歩んで行きたいですね。

### 新入会員紹介 (9月入会)

高橋 弘江 さん

武山 銀次郎 さん

### 第10回 高齢者なんでも相談会

日時 11月26日(日)

場所 下京区役所第4会議室

①相談会 10:30～16:00

②講演会 13:30～14:30

主催 下京・高齢者支援ネットワーク

チラシ同封しています。

### 編集後記

◆酷暑の夏をどうにか生き延び秋の恵みを味わえる季節になりました。が、社会情勢は混とんの度を増しています。こういう時こそ老人力の発揮です。今まで培った知識と経験に基づく知恵を生かしましょう。高齢者人口の多さが疎まれていた社会ですが、この人口の多さをフル活用したいものです。

◆今月は会報のほかに、研修会関係のチラシが三枚と会員リレーえっせいの中西さんのナンプレの付録が入っています。秋の夜長にチャレンジしてみてください。

◆「会員のひろば」新設しました。皆様のご投稿お待ちしております。

学びの秋です。研修会でお会いしましょう。

(竹山 幸江)